



# 白虎隊の會長崎支部だより



第5号

平成28年3月31日

発行：長崎支部

## 長崎會津会が発足

平成27年6月20日、幕末・明治期に長崎で活躍した会津出身者の功績を広く長崎県内外に紹介するとともに、長崎と会津のかけはしとなることを目的として長崎會津会が発足されました。

白虎隊の會長崎支部を母体にしたもので、會長に大堀哲長崎歴史文化博物館館長、顧問に木下健長崎総合科学大学学長にご就任をいただき、会員12名でスタートしました。

大堀會長は福島県の会津坂下町のご出身で、平成17年11月3日に開館した長崎歴史文化博物館の館長に当初から就任されています。木下健顧問は山川健次郎のひ孫にあたられ、平成27年3月東京大学教授を定年退官された後、翌4月から長崎総合科学大学の学長に就任されています。

## 『長崎と会津をつなぐ絆』講演会

6月20日、長崎歴史文化博物館で高久和也副支部長(長崎會津会副會長)が長崎會津会発足の挨拶の後、木下健氏の長崎総合科学大学学長就任を記念して、『長崎と会津をつなぐ絆』と題する講演会を開催しました。まず、工藤新一白虎隊の會長崎支部長が『長崎の中の会津』と題して日下義雄初代長崎県知事や北原雅長初代長崎市長、柔道家西郷四郎など会津人が長崎でどのように活躍したかについて紹介がありました。その後、白虎隊の会本部の副會長で長崎會津会の顧問である木下健氏が『私が聞いている山川家の人々』と題して、大河ドラマ「八重の桜」で活躍した山川大蔵や弟の健次郎など山川家の人々についてご紹介いただきました。講演の中で山川健次郎は東京帝国大学や京都帝国大学の総長の他、九州帝国大学の初代総長や九州工業大学の前身である明治専門学校の初代総裁にも就任しており、九州とも縁が深い人物であったことが紹介されました。

最後に所用で遅れて来られた大堀哲当支部顧問(長崎會津会會長)の御挨拶で締めくくりました。







大堀会長の挨拶



工藤支部長の講演



山川健次郎のひ孫の木下顧問の講演



講演会後に親睦会を開催

## 『長崎と会津をつなぐ絆』講演会 Part2

長崎會津会と共催で12月5日に、『長崎と会津をつなぐ絆』と題する2回目の講演会を開催しました。近代統計学の祖 杉享二と南洋の砂糖王 松江春次のご子孫でいらっしゃる松宮伊佐子氏が『長崎と会津をつなぐ私の家族たち』と題し、また松宮克昌氏(松宮伊佐子氏の御主人)が『近代統計学の祖 杉享二伝』と題して講演されました。杉享二(すぎ こうじ 1828～1917)は長崎の出身で、胸像が長崎市の長崎公園入口付近に建てられています。松江春次(1876～1954)は旧会津藩士 松江久平の次男として会津若松で生まれています。松江春次は南洋興発株式会社を設立し、サイパン島やテニアン島に製糖工場を作るなどして南洋群島最大の企業として発展させ、その経営手腕から「砂糖王」と言われるようになりました。松宮伊佐子氏は、杉享二と松江春次のご子孫にあたられ、長崎人と会津人の血を引いておられます。なお、松江春次の兄 松江豊寿は第一次世界大戦中、ドイツ人捕虜を収容した板東俘虜収容所(徳島県鳴門市)の所長だった人で、映画『バルトの楽園』で一躍有名になりました。



←松宮伊佐子氏のご講演  
松宮克昌氏のご講演 →





## 「長崎の中の会津」特別さるくを開催

長崎會津会と共催で12月5日午後から、特別さるく「長崎の中の会津と幕末明治の長崎の隠れた偉人伝」特別さるくを開催しました。



杉亨二の像を見学し、思いをはせる参加者  
長崎市

幕末から明治期の偉人を紹介し、会津出身者が残した史跡を巡る特別さるく「長崎の中の会津と幕末明治の長崎の隠れた偉人伝」が5日、長崎市内であった。6月に発足した市民グループ「長崎會津会」（大堀哲会長）主催。同会の工藤新一事務局長が案内し、会員ら6人が参加した。初代本県知事の目下義雄、初代長崎市長の北原雅長ら本県で活躍した会津藩出身者に関する顕彰碑や説明板などを見学。参加者は日本で

### 会津に思いはせ史跡巡る

長崎會津会が特別さるく

初めて国勢調査を実施した近代統計学の祖、杉亨二（長崎市出身）の像などに熱心に見入っていた。この日は、杉氏の玄孫で東京在住の松宮伊佐子さん（71）も夫婦で参加。日本で初めて角砂糖の製造に成功した松江春次氏（会津若松町出身の孫にもあたる松宮さん）は「長崎は砂糖伝来の地でもあるので、縁を感じている。幕末や会津について研究されている方々と歩くことができて幸せ」と感想を述べた。（嶋田嘉子）

12月6日付長崎新聞

この日の特別さるくには、東京から松宮克昌氏と伊佐子氏ご夫妻も参加していただきました。白虎隊の会長崎支部が平成25年1月に設置した目下義雄初代長崎県知事の説明板を見学したり、北原雅長初代長崎市長の直筆が残る諏訪神社の「五厘金の碑」を訪問したり、柔道家として名をはせた西郷四郎のお墓をお参りしたりしました。また、松宮伊佐子氏の御先祖である長崎出身のわが国近代統計学の祖杉亨二の胸像も見学しました。



西郷四郎のお墓を訪問

## 目下義雄夫人のお墓を清掃

目下義雄が第8代長崎県令として長崎に赴任した明治19年の12月11日、最初の妻 可明子夫人が病気で亡くなりました。白虎隊の会長崎支部では毎年可明子夫人の命日の前に、遺髪が納められている可明子夫人のお墓の清掃とお参りを行っています。今年は12月5日に特別さるくの参加者と会員合わせて9名で清掃とお参りを行いました。





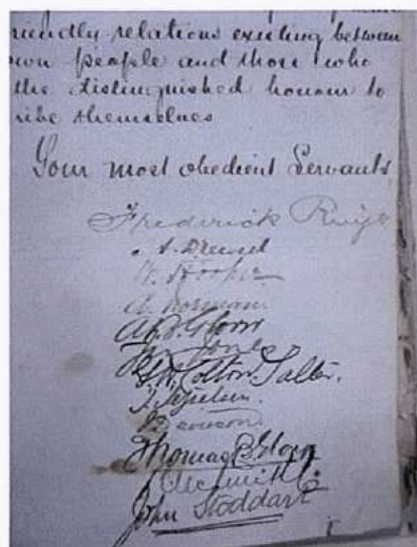
## 大堀長崎歴史文化博物館館長が講演

9月5日、長崎歴史文化博物館で大堀館長が『長崎居留地を舞台に活躍した人たち～フレデリック・リンガーと日下義雄（初代長崎県知事）を中心に～』と題して講演されました。講演は、1. 長崎居留地の整備と明治日本の近代化、2. 明治期の長崎居留地～古写真から～ 3. 居留地を舞台に活躍した人々の3部構成でお話しをされ、特に日下義雄が長崎の上下水道整備について尽力するのに対し、長崎居留地の人々が大いに感謝し、フレデリック・リンガーの名を筆頭にしてトーマス・グラバーなど60人が連名で日下義雄知事に感謝のメッセージを贈っていることにとっても興味が引かれました。

当時の長崎はまだ水道というものはなく、井戸水やわき水などに頼っていたため、コレラがたびたび発生して、多くの人々が亡くなっていました。居留地に住む欧米人たちはとても怖かっただろうと推測されます。上下水道の整備・着手は日下義雄の長崎県知事としての最大の功績であろうと思われます。



大堀館長のご講演



日下義雄への感謝状

## —今年度を振り返って— 長崎支部長 工藤新一

今年度は6月に「長崎會津会」の立ち上げと長崎會津会と共催での6月、12月の二度の講演会が大きな行事でした。12月に恒例の日下夫人の墓所の清掃と献花を実施しました。9月には「白虎隊ツアー」に参加し、初めて「藩公行列」を見学しました。飯沼事務局長はじめ飯沼家の皆様、福岡支部の山内様、京都支部長の司太夫、真部會津支部長や会津支部ならびに白虎隊の会の皆様に大変お世話になりました。

この紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。

来年度も他支部との交流を深めていきたいと思っております。

(文責:草場里見 写真:吉武 廣司)